

金農パン

5月発売予定

最終候補、生徒がプレゼン新作に込めた思い熱弁



5月に発売予定の「金農パン」の新作発表を前に、最終候補に選ばれた賞品アイデアを紹介するプレゼンテーションが23日、秋田市の金足農業高校で行われ、生徒4人が「秋田の魅力を発信する」とパンに込めた思いを説明した。新作には実習田で育てた「金農米」の米粉が初めて使わ

れる予定。生徒は商品を宣伝するための新聞広告の制作にも取り組んだ。

金農パンは同校とコンビニ大手ローソンが共同開発するロングセラー商品。毎回、生徒が考案したアイデアを基に商品化しており、今年で15年目を迎える。プレゼンには、ローソン東北カンパニー（仙台市）や製造元のたけや製パン（秋田市）の担当者が立ち会った。

今回は生徒から190件のアイデアが寄せられ、5件が最終候補に選ばれた。金農米のほか、県産の小麦やサツマイモ、男鹿塩、バター餅などを用いており、どれも秋田らしさが際立つ提案となっている。このうち2件が5月発売の商品に採用される予定。プレゼンでは、開発に携わった生活科学科の生徒4人が同カンパニー東北商品部長の中村良平さんにセールスポイントを説明。「パンケーキに米粉を混ぜており、独特のしっとりもちもち食感が楽しめます」「男鹿塩を使って甘塩っぱさを強調したので、癖になるはず。幅広い年代に味わってほしいです」などとアピールした。

試作品も用意され、生徒や関係者が試食。中村さんは出来栄の良さに驚き、「バター餅と抹茶を組み合わせるなど、発想がすごい。どれも完成度が高く『秋田愛』が伝わってくる。いいものを作ったと自信を持ってもらいたい」と太鼓判を押した。

生徒はこの後、新聞広告の制作会社社員からレクチャーを受け、広告作りを体験。キャッチコピーの案を出し合ったほか、写真や文字の配置、色合いなどを考え、実物大の枠にデザインを描き込んだ。広告が5月の発売時期に合わせて秋田魁新報に掲載する予定。（小松嘉和）

（令和8年3月25日（水）秋田さきがけ新聞より一部抜粋）